

まちづくりラボ・プロジェクトの拠点「ミントポ」の取組み

令和 8 年度（3 月～）これまでの活動

ア 暮らしや地域活動のニーズに関する取組み

名称[開催時期]	目的及び内容
ほうかごミントポクラブ （教育委員会後援事業） 〔R5.12～〕	子どもの居場所づくりとして、毎週水曜日の午後、カフェ店内の小上がりを近隣小学生の放課後の居場所として開放し、子どもたちの交流と遊びの場を提供。 設立当初から継続して利用する児童が多く、近年ではきょうだいで利用や他校の友人を誘って過ごす姿も見られるなど、利用者が多様化している。 また Cleanup&CoffeeClub(以下「CCC」。詳細は後述)を通じて「ほうかごクラブ」の活動を知った参加者から、子どもたちの居場所の充実に役立ててほしいとボードゲームが無償提供されるなど、ミントポで行われる異なる活動が相互に連鎖し、地域による子どもの居場所づくりを支える新たなつながりが生まれている。 
Cleanup&CoffeeClub (CCC)〔R7.2～毎月第二日曜継続開催〕	商店街や地域の繋がりを育む取り組みとして毎月開催。まちを主体的に綺麗にすることだけではなく、ゴミ拾いというアイスブレイクを通じて、地域の顔見知りやつながりを増やし、地域に一つのコミュニティや居場所に成長することを目指している。誰もが参加しやすいゴミ拾い活動をきっかけに、まちに顔見知りを増やし、世代や立場を越えて気軽に関われる地域コミュニティが育まれている。 CCC には毎回 10～20 名が参加し、親子連れから地域活動者まで幅広く集まる場として定着している。活動をきっかけに自主的なゴミ拾いを始める方や、回収用の容器を寄付する方が現れるなど、活動参加をきっかけに、自ら地域に関わろうとする行動への発展が増加している。また、個人だけでなく商店街店舗からも、活動への感謝

として参加者に飲食物を無償提供されるなど、地域の店舗が活動を応援する動きも生まれている。さらに、CCC で生まれた繋がりが足立区内の別の地域活動やイベントへ参加にもつながるなど、継続的な活動を起点として意識の変化や地域参画が広がっている。



プレオープンセレモニー（地域施設との連携）
[R8.3.7]

竹の塚地域学習センターのプレオープンセレモニーをミントポにて開催（無料）。主に足立区で活動する、東京藝術大学卒業生で結成された「ミレニアムシンガーズ」による演奏が披露され30名以上が鑑賞した。終了後は、定期開催を望む声も多く寄せられた。

駅前に面したミントポの環境を活かして、誰もが立ち寄ることのできる開かれた演奏の場としたことで、演奏者と地域住民の交流や、会場全体の一体感が生まれた。本演奏会を事例の一つに、ミレニアムシンガーズが地域や商店街に一步踏み込んで活動の場を広げる機会となった。



春のスターチスリース作りワークショップ(地域商店街連携)

[R8.4.5]

商店街の生花店と連携し、季節の花を楽しむワークショップを毎年開催(有料・参加者 9 名。昨年はミモザを使ったスワッグ作りを開催)。少人数制ならではの丁寧な体験と参加者同士の深い交流が生まれ、花を通じて地域がつながる機会となっている。

こうした継続的な取り組みを通じて、生花店をはじめとする商店街店舗とミントポの関係性も深まり、ハロウィンなど、地域の店舗とともに企画・実施するイベントへと連携が広がっている。日常的な関係を積み重ねることで、商店街と地域住民と一緒に駅前の賑わいをつくる基盤の一つとなっている。



9

クラシック演奏会 #05,06

[R8.4.25、7.26]

年 2 回定期開催しているプロのクラシック音楽家による生演奏会。各回 30～40 名程の来場があった。(予約制、有料)

間近で生演奏に触れる特別な時間に価値を感じる参加者が多く、次回の開催を心待ちにする声や、開催回数の増加を望む声も寄せられている。

開業当初から開催を重ねるなかで、ミントポは音楽を聴くだけでなく、地域の人が「演奏を披露できる場」として認知が広がっている。カフェを利用者していた地域住民から「自分も演奏してみたい」と相談が寄せられるなど、

参加者が新たな表現者となり、地域のなかで活動にチャレンジするきっかけにもつながっている。



カフェと骨盤ケア
(カフェスペースの
場所貸し)

ミントポのカフェ利用者から、足立区内で地域の健康づくりにつながる活動を始めたいと相談があったことをきっかけに、企画内容やチラシ作成について相談に応じながら一緒に検討。トライ＆エラーを重ねながら活動を実現している。

さらに「たけのつカー＆パーク(以下「たけパー」)」でのイベント開催を実施したことで常連の利用者が増えた。その後もミントポでの定期開催を実現している。ミントポとたけパーが連動し、それぞれの特性を活かしながら、地域の人の「やってみたい」が実践され、主体性のあるステップアップを支える環境が形成されている。



苗分けの日
毎月 1 回開催
[R 8 .3.19 、
4.17 、 5.22 、
6.20-25 、
7.22、8.11-14]

「ミントポ菜園部」活動にて、まちや家庭に緑を増やす取り組みの一環として、ミントポで種から育てた植物の苗を地域と分け合う「苗分けの日」を毎月開催、ミントポの菜園で育てている苗を地域住民に無償配布しまちの緑を豊かにする取り組み。種ではなく苗から気軽に育てられることから、菜園初心者を含め毎回 30～40 名が参加している。

また 4 月・5 月・7 月には、プロの指導員を招いた「なんでも相談会」を開催。菜園について気軽に相談できる機会を設けたことで、ミントポの取り組みや菜園活動に興味関心を持ち、地域住民による種の寄付や自主的に水やりをする人が生まれ、ミントポの菜園が地域みんなでつくり、育て、見守る場へと少しずつ変化している。

こうした変化を受け、今後はミントポのプランターそのものを、地域みんなで作る菜園活動へと発展させていく。



イ 未来の竹の塚を考えるきっかけづくりの取組み

名称[開催時期]	目的及び内容
アイデアカード [R5.7～]	アイデアカードが刷新され、「あったらいいな！できたらいいな！こんな竹の塚」という具体的な問いを掛け合わせたテーマで新たに募集を開始。これまで多かったまちの風景や環境に関する意見に加え、「〇〇をしてみたい」という行動につながるアイデアが増えており、一人一人が竹ノ塚での過ごし方やまちとの関わり方を、自分ごととして考えるきっかけとなっている。 その一つとして、「落ち着いて勉強ができる自習スペースがほしい」という学生の声をもとに、中高生が自由に利用できるフリースペースを2026年8月27日から試行する。今後は、アイデアカードに寄せられた声を地域で共有し、「竹の塚でどんなことができそうか」「どのような場所や過ごし方があるといいか」とともに考え、場を「使う人」と「管理する人」ではなく、地域みんなで「わたしたちのまち」を考え、試すことのできる場づくりに注力していく。